



こすもスマイル

48号

発行／小林市立病院

令和3年3月 発行

～事務部長のあいさつ～



日頃より皆様方には、当院の運営並びに地域連携にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症による影響で大変な状況の中、その対応に様々な方面から尽力されていることに敬意を表します。

さて、今回は地域医療構想と新型コロナウイルスについて、国の動きを含めた現況などをご報告いたします。

地域医療構想は、本格的な少子高齢社会の到来に向け、将来人口推計をもとに2025年に必要な病床数を高度急性期・急性期・回復期・療養の4つに機能分担したうえで各々が連携し、効率的な医療提供体制を実現する取組とされています。

これを基に厚生労働省は一昨年9月、「再編統合など地域医療構想を踏まえた具体的対応方針の再検証を要請する病院名」を公表し、以降、議論を加速させていました。しかし、昨年国内で蔓延している新型コロナウイルス対応に多くの時間を割かれ、同省は昨年8月、再検証等の期限を事実上延期し、その後、10月の同省地域医療構想に関するワーキンググループで示された「新型コロナウイルス感染症を踏まえた地域医療構想の考え方について」に基づき議論を再開しました。

この間、当院は感染症指定医療機関として、西諸医師会、小林保健所、西諸の公立病院及び関係機関のご協力をいただきながら診療体制を整備してきました。関係機関の皆様には、現状で大きな混乱もなく診療体制を継続できていることへの感謝と共に、地域医療における医療機能の明確化と分担、そして連携の重要性について改めて認識いたしました。

医師の偏在に伴う医師不足や働き方改革など当地域における課題は山積していますが、今後の地域医療構想調整会議ではこの経験を生かした議論をしていくことが必要だと考えます。

地域住民の皆様が安心して住み続けられる体制を整えていくため鋭意努力してまいります。

引き続き関係各位のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

小林市立病院 事務部長 貴嶋 誠樹

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



診療部紹介 泌尿器科



日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

当院泌尿器科は、昨年6月から米澤智一先生が着任し新体制となりました。

この半年間で、泌尿器科手術のほとんどを体に優しい腹腔鏡手術へ移行することができました。腹腔鏡手術の半年間の実績は、腎関連手術：8例、前立腺全摘除術：15例、膀胱全摘除術＋尿路変更術：5例、仙骨腫固定術：2例でした。引き続き最善の治療が行えるよう努力して参ります。手術数が増えたため、月に何回か金曜午前に腹腔鏡手術を行う必要があり、金曜午後外来にご協力をお願いします。

今回は、骨盤臓器脱について。骨盤臓器脱とは、膣のヘルニアなどとも呼ばれ、子宮・膀胱・尿道・小腸・直腸などが下垂し膣外に出てきてしまう病気です。最初は膣から何か落ちてくるだけですが、進行すると排尿困難や排便困難、性機能障害なども起こるようになり、痛みや出血のため著しく生活の質を低下させます。また、恥ずかしさから病院にも行けず、人知れず悩んでしまう病気でもあります。骨盤臓器脱の根治治療は手術になります。当院では腹腔鏡手術を採用しています。持病や合併症などある人は手術が出来ないこともあり、その場合は保存療法が選択されます。お気軽にご相談ください。

泌尿器科科長 森 勝久

看護部紹介 3階病棟

患者さん、ご家族の方々には感染症対策における面会制限等にご理解、ご協力を頂き感謝しております。3階病棟は、複数の診療科があります。それぞれの診療科に特化するよう看護スタッフは3つのチームに分かれています。各チームの紹介をします。

*** 産婦人科チーム ***

昨年は118人の赤ちゃんが誕生しました。奇跡の瞬間に立ち会える喜びと同時に、責任の重さを感じています。私達はカンファレンスを行い、病院全体で情報共有し、より良いお産に結びつけています。また、カンファレンスを通して西諸管内の行政とも連携しています。今後もお母さんと赤ちゃんが安心して出産を迎えるように、チーム一丸となって頑張ります。

*** 泌尿器科チーム ***

排尿トラブルや泌尿器系の悪性疾患、透析を始める患者さんがいます。検査や治療がスムーズに行われるように、役割分担を行い、勉強会を開催しています。また、退院後の生活を踏まえ分りやすい指導を心がけ、看護の質向上に努めています。これからも、患者さんが安心・安全で快適に入院生活を送り、退院できるように頑張ります。

*** 整形外科チーム ***

骨折等により、入院前と生活形態が変わってしまう患者さんもいます。そのため、手術前から医師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーなどを交えて退院後の生活等について話し合いをしています。手術後は、以前のように行動できずに戸惑うこともあるかと思いますが、患者さんに寄り添いながら解決策を一緒に見出せるよう取り組んでいきます。

3階病棟 主任看護師 餅原 悦子・主任看護師 玉利 裕美



栄養情報だより



臨床栄養室

新型コロナウイルスが早く終息することを願いながら、自分自身や周りの家族のためにも日頃の感染防止対策や免疫力アップに力を入れていきましょう！！

免疫力を高めるポイント

腸を元気にしよう

善玉菌を増やすと免疫力アップにつながります。ねばねば食品(オクラ、モロヘイヤ、海藻、こんにゃく類など)に含まれる水溶性食物繊維は善玉菌のえさになるだけでなく、便秘解消効果も期待できます。ヨーグルトに含まれる乳酸菌も免疫アップにおすすめです。



身体を冷やさない

身体の冷えは肩こりや腰痛、下痢、便秘などの不快症状の原因になります。防寒対策とあわせて、温かい料理や飲み物で身体の中から温めましょう。



ストレス解消

ストレスを受けると免疫力が低下します。家の中で楽しめる趣味や軽い運動(散歩・ストレッチ)など自分にあったストレス解消方法を見つけましょう。



質のよい睡眠

副交感神経が活発に働き、身体を休ませ免疫力を回復させる役割を果たしてくれます。



免疫を高める食品

発酵食品

納豆や味噌、キムチやヨーグルトは善玉菌が豊富です。善玉菌は腸内に定着しないため、毎日継続して摂取するのがおすすめです。
★野菜たっぷり味噌汁 ★納豆キムチ ★ヨーグルト(季節の果物をいれると◎)

緑黄色野菜

皮膚や粘膜などの細胞を強化するβカロテンが豊富です。人参やかぼちゃ、ほうれん草を使った料理はβカロテンが補えます。
★人参しりしり ★かぼちゃの煮物 ★ほうれん草の胡麻和え

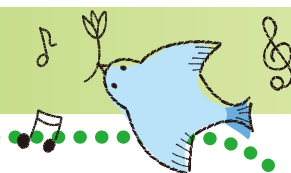


キノコ類

きのこに含まれる食物繊維の“β-グルカン”は腸内の免疫細胞に直接作用して活性化させるといわれています。
★きのこ鍋 ★きのこのバター炒め ★きのこシチュー



コメディカル紹介 医事係



今回の医事係紹介では、当院の病院統計の中から令和元年度の患者数等の統計データの一部をご紹介します。

令和元年度		入院	外来
患者数	延べ患者数	29,140人	32,893人
	一日平均患者数	79.62人	137.05人
地区別患者利用割合	小林市	65.7%	71.1%
	えびの市	16.7%	13.5%
	高原町	12.2%	9.9%
	都城市	2.5%	2.1%
	宮崎市	0.4%	0.6%
	その他県内	0.3%	0.4%
	その他県外	2.2%	2.4%
年齢別患者割合	70歳以上	63.9%	46.5%
	60歳代	13.9%	15.4%
	50歳代	5.7%	6.3%
	40歳代	3.0%	4.9%
	30歳代	5.8%	6.2%
	20歳代	4.5%	3.9%
	10歳代	1.6%	3.5%
	10歳未満	1.6%	13.3%
救急患者数	3,110人		
救急車受入台数	849台		
手術件数	487件		

入院患者数は、減少傾向です。主な要因は、人口減少が考えられます。外来患者数は、産婦人科、小児科の再開などにより最近増加傾向です。

地区別患者利用割合は、入院・外来とも小林市が65%以上を占め、次にえびの市、高原町の順で、その他は都城市や県内、県外です。年齢別患者割合は、70歳以上が入院63.9%、外来46.5%です。年齢別患者割合も産婦人科の分娩再開により、20歳代、30歳代の方の割合が増加傾向です。

救急患者数や救急車受入台数は、近年高齢化により増加傾向です。手術件数は、毎年500件前後で推移しています。

診療科別の患者数など詳しい病院統計は、病院ホームページ (<https://www.kobayashi-city-hp.jp>) に過去5年間のデータを随時掲載していますのでご参照ください。

医療費や診療報酬に関する問い合わせは、遠慮なくお尋ねください。

医事係 スタッフ一同

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp

スタッフのひとこと

穏やかな日ざしに桜のつぼみも膨らんで春の訪れを感じてまいりました。四季を感じられるこの時季、癒やしを感じています。

今年度はコロナの影響で生活も一変し、健康管理や免疫力アップを意識した食生活をしてきました。そのおかげもあり体調を崩す事なく1年過ごす事ができました。

そして、うちの次女も来年度中学生となります。卒業式や入学式まだまだ安心できる日常ではないですが、成長の門出を祝いたいと思います。

このような状況ではありますが、皆様がすこやかに過ごされるようお祈りいたします。

地域医療連携室 退院調整看護師 竹内 加代

